

すごいなあ。「しごとしょうかい文」を書こう

ー第二学年国語「どうぶつ園のじゅうい」の学習を発展させてー

横浜市立高田小学校 主幹教諭 佐藤 幸江

キーワード：小学校、2年生、国語、生活科

1. はじめに

子どもたちにとって、教室内外での人・もの・こととの出会いは、新しい自分の発見であり子どもたちの成長のチャンスとなる。

まず、国語で今までよく知らなかった「どうぶつ園」の動物たちの命を守り支える「じゅうい」の存在を知り、自分たちの周りの様々な命にかかわる仕事への興味・関心を広げていく学習を行う。

これまでに、時間的順序や理由を表す叙述については説明的な文章教材「たんぽぽのちえ」で、文章を読んで感想を書くことについては物語的な文章教材「ふきのとう」「スイミー」「黄色いバケツ」で、表現方法を学習してきている。また、本教材文では、獣医さんの仕事にはどのようなものがあるのか、またどうしてその仕事をするのかという理由という文章構成を学ぶ。

このように学んできた表現方法をもとに、学校や地域の方々の仕事紹介文を書き、お礼とともにお渡ししたり、発表したりする活動へとつなげる学習にしていきたい。それによって、自分たちは様々な人が働くことによって生活できていることに気づき、人々への感謝の気持ちを育むことができると考えている。

2. 国語「どうぶつ園のじゅうい」

2. 1 単元目標

- ◎時間的な順序や事柄の順序を考えながら、獣医の仕事やそのわけを読み取ることができる。
- ◎文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、感想を伝えることができる。
- 条件に沿って経験したことをもとに書くことを決め、簡単な構成の文章を書くことができる。

2. 2 評価規準

国語への関心・意欲・態度	①自分の知っていることと結び付けて説明文を読もうとしている。
読む能力	②何について、どのようなことが、どのような順序で述べられているのかを理解している。 ③知識や体験と比べて「はじめ・中・おわり」の構成で文章を書いている。
書く能力	④「はじめ・中・おわり」の構成で文章を書いている。
言語についての知識・理解・技能	⑤時間の順序を表す言葉を理解している。

2. 3 指導計画

- ①学習課題を確かめ、題名、挿し絵や写真から内容を考える。
- ②時間的順序を表す言葉を基に仕事内容を読み取る。
- ③④理由を表す言葉に気づき、仕事とその仕事をするわけを読み取り、学習カードにまとめる。
- ⑤⑥「いつもすること」「ある日、特別にすること」があることを、映像と文章を比べることを通して考える。
- ⑦獣医の一日を表にまとめながら、獣医の仕事について考える。
- ⑧一番、興味をもったところをもとに感想を書く。
- ⑨感想をもとに、考えたことを伝え合う。
- ⑩⑪⑫学習したことをもとに、学校で働く人の仕事についてみんなに伝える文章を書く。

2. 4 授業の実際

本単元で学習することを提示し、学習の見通しをもたせた。今回は、この単元で学習したことをもとに、生活科と関連づけて「しごとしょうかい文を書く」活動を予定していることも伝えた。

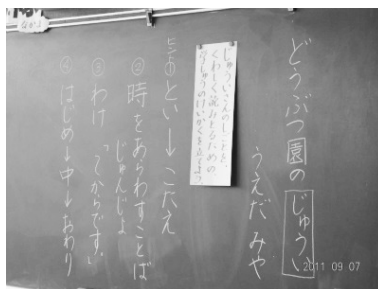


写真1：学習の見通しをもつ



写真2：挿絵で確認

子どもたちは、身近なお医者さんとしてペットの獣医さんのこと、動物園で動物の世話をする飼育員さんのことは知っていたけれど、動物園に獣医さんがいることを知っている子は少なく、教材文への関心は高かった。

教材文を読むと共に、挿絵をもとに獣医さんがいる場所を確認した。

動物園の獣医さんの仕事には、「いつもする仕事と特別な仕事」がある。これらは、これから様々な仕事を取材して紹介文を書く際の視点となるため、しっかりとおさえたいと考えた。まずは、教材文をその視点からまとめると共に、国語デジタル教科書にあるデジタルコンテンツを視聴し、それを同じ視点でまとめるという＜習得型→活用型＞の学習としていった。



写真3 「いつも・特別」でまとめる → 生活科「大すき！たかたの町」での、高田の町でみんなのために働く方々に関心をもち、その仕事紹介へとつなげていきたい授業を計画していた。この時点では、技術員さんではなく、先生の仕事を取材、紹介することを考えていた。しかし、本単元を実践中に、ごみの処理について技術員さんにお世話になるという事件が起こった。ちょうどよく技術員さんの仕事に目が向いていったため、技術員さんをお願いをして、ある日の仕事の様子を写真に撮っていただいたり、インタビューに答えていただいたりという場を設定することができた。

そして、取材したことを紹介文に書き、感謝の言葉を入れて、技術員さんに読んでいただいた。



写真4, 5: 技術員さんについてのまとめ

いつもは何気なく接していた技術員さんが、実は自分たちの学校生活を裏から支える仕事をしていたことに気づいた子どもたちは、それからゴミの分別を気にしたり、会うと挨拶を交わしたりという様子を見せるようになった。

3. 生活科「おしごとたんけんたい」

3. 1 単元目標

○これまでに学校や地域探検をして自分の心に残ったできごとや思いを、他の学年や保護者、地域の方々に喜んでもらうために、様々な方法で表現して伝えたり、交流したりすることができる。

3. 2 単元計画<30時間扱い>

①～③学習の見通しをもつ。

- 高田の町について知っていることを出し合う。
- 学校のように「たくさんの人があつまるステキな場所」探検を計画する。

「国語で読者を説得する論法を学ぶ」
→「高田小学校の技術員さんの仕事」を取材し、その仕事について考え、文章にまとめる

④～⑤高田の町へGO!「公園探検隊」

⑩～⑫自分たちだけではできない！教材学級の五年生に力を借りよう

⑳～㉒高田の町のすてきをもっと見つけよう。

27～30学習発表会で発表しよう。

3. 3 授業の実際



「高田の町のもっとすてきを紹介しよう」という活動と「どうぶつ園のじゅうい」で技術員さんの仕事の素晴らしさや大変さを学んだことがうまくつながった。



写真6, 7 町の人との出会い していた。

消防署では、所長がいないので対応できないという前日のお話であったが、子どもたちが行くと丁寧に説明をしてくださった。ケアプラザでは、当日行われていた「子育て支援サークル」の会場に参加させていただいた。いつも教室のトラブルメーカーの子どもが、よい笑顔で人と関わっていたのが印象的であった。

ここまでの学習を11月の「学習発表会」で保護者や地域の方々に発表した。

おしごとたんけんたい



4つのチームにわかれて発表します！



写真8～11 学習発表会での様子

4. 考察

様々な人と出会う実の場での活動を通して、人と積極的に関わるおもしろさ、自分たちなりに考えたり工夫したりしたことを発表してリアクションをいただくことの楽しさを感じ、身近な人や社会との関わりに気づくことができたと考える。これは、次の「自分たんけん」の活動へとつながっている。